

1 日 時

- (1) 資料送付 令和4年2月 3日
- (2) 回答提出 令和4年2月14日
- (3) 議事録送付 令和4年3月16日

2 資料送付先

委員（8名）、県教育庁生涯学習課

3 議案

- (1) 令和3年度の運営について（運営実績、実施事業等）
- (2) 令和4年度の運営について（運営ビジョン等）

4 委員からの主な意見及び回答

（意見）

今年度もコロナの影響が大きい一年であった。しかし、引き続きプログラムの充実を図ってほしい。今はキャンプがブームのため、ノウハウを伝えるもの、親子で楽しめるものなど、様々な企画を打ち出してPRしても面白いのではないか。

（回答）

ファミリーキャンプにおいて、「家族のキャンプ・スキルアップ」等の取組を試みた。参加者からは好評を得たが、世間のキャンプブームを鑑みると、参加者目線でさらに魅力的なプログラムを考察していきたい。また、内容の周知を図るため、PRの方法を再度検討していく。

（意見）

感染症対策もやり、種々の魅力的な事業計画もある自然の家の認知度が今ひとつと考える。

（回答）

認知度が低いことについては自覚している。当所が提供するイベントの情報を入手したいと思っているであろう利用希望者にその情報をしっかり届けるため、当所では来年度に向け「岩城少年自然の家広報計画」を策定したところである。この広報活動を着実に実施することで、当所の認知度向上、活動内容に周知に努めていく。

（意見）

白神体験センターを利用する中央管内の学校が増えているそうだが、その理由を分析し活用してはどうか。

（回答）

同センターは当所同様、海に近いという立地条件であるが、この立地を生かした海の活動について、当所の現状は弱いと認識している。今後、当所の強みである森の中の活動やプロジェクトアドベンチャーに加え、地域人材の協力を仰ぎSUP（※）といった海の活動を新たに開拓するなど、海も山もある当所の立地を生かしたプログラムの再構築を図り、利用者の確保につなげていきたい。

※SUP・・・スタンドアップパドルボードの頭文字で作られた略称。呼称はサップ。ボードの上に立ちパドルを漕ぐことで、水面の上を進むスポーツ。岩城地区の海辺で体験が可能。